

施肥量による美濃早生大根の鬆入の変化について

吉村 邦敏*・古田 勝己*

YOSHIMURA, K., and FURUTA, K. Varietal Differences in Pithy Tissue of Radish caused by Various Amounts of Fertilizers.

準高冷地の夏採り美濃早生大根栽培の場合鬆入の早晩は収量及び漬物の品質に及ぼす影響が大きいが、大根の鬆入は積算温度或いは一定の根の大きさに達した時起ると云われるが、施肥量の多少によつて鬆入現象に如何なる影響があるかを試験した。

(1) 黒葉系みのを供試して、施肥量 N 8 貫, P 4 貫 K 4 貫, N 6 貫, P 3 貫, K 3 貫, N 4 貫, P 2 貫, K 2 貫, N 2 貫, P 1 貫, K 1 貫の 4 区を作り、7 月 14 日に播種し、播種後 44 日, 50 日, 55 日の 3 回鬆の発現について調査した。

* 熊本農業試験場寒冷地試験地

(2) 施肥量の多少によつて大根の各部の生育に著しい差があるが、特に地下部に比し地上部が強く影響し T/R 率が N 8 貫, P 4 貫, K 4 貫, 44 日目 0.94, 50 日目で 0.79, 55 日目で 0.66 であつたに対して、N 2 貫, P 1 貫, K 1 貫は 44 日目で 0.64, 50 日目で 0.62, 55 日目で 0.43 であつた。

(3) 鬆の発現については、多肥区は少肥区より鬆入の時期及び発現の程度もおくれ、それに反し根の生育速度が早い。漬物としての収穫限界期と、根の生育状態は N 8 貫, P 4 貫, K 4 貫で 50 日目—55 日目の間で、根重が 210 匁程度、N 6 貫, P 3 貫, K 3 貫区で

50 日目根重 180 匁程度，N 4 貫，P 2 貫，K 2 貫で 44 日目—50 日目の間で根重 140 匁程度，N 2 貫，P 1 貫，K 1 貫区で 44 日目—59 日目の間で根重 100 匁程度であつた。

(4) 夏採り美濃早生大根の鬆入は，施肥量によつて，鬆発現時期も異ると共に，収穫限界期における根の生育程度は著しい差を生ずる。その原因は地上部の生育差によるものと思われる。